

質問
QUESTION

回答
ANSWER

タイムラインの完成はいつに？

「人の命が一番」を念頭に取り組みます

〔総務課長〕

質問 9月は防災月間です。

昭和51年9月12日は長良川の堤防が決壊し、当町全域が水浸しになってしまいました。あれから41年が過ぎました。41年前より現在は、地球温暖化が進み、ゲリラ豪雨と呼ばれる短時間に強烈な雨が降り、各地で大きな被害がそのたびに起きてい

ます。この状態はもう特別なことではなく常態化していて、それに対応するのが常識化しつつあります。そこで、国・県・自治体では少しでも人命や社会経済的な被害の軽減を図るため、タイムライン（防災行動計画）の策定を急いでいます。タイムラインとは、災害時に住民がどんな行動をとったらよいのかを、災害前に災害を想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」を整理した計画表をいいます。

回答

国土交通省は国が管理する河川を対象に、水位や雨量等に応じてとるべき行動、避難勧告等の発令に着目し、時系列で整理したタイムラインを含む全国730市区町村に策定することとしました。

作成には手間、時間のかかる作業だと十分理解しています。当町も9・12水害を経験しています。水害対応のタイムラインに特化した河川別、地域別のタイムラインが望まれます。町民の生命、財産を守る町の使命を十

現在、町が定めたタイムラインは揖斐川、長良川に関する台風の接近、上陸に伴う洪水を対象としたタイムラインです。

分理解し、担当課・防災担当者等が中心になり、関係機関と連携をとり、早急の完成を切望するものです。

今後は、さらに河川別、地域別のタイムラインや台風、豪雨等、災害の種類や災害の規模別のタイムラインも必要と考えます。「人の命が一番」を基本に、



9.12安八水害（役場南付近）

- ① 防災機関、地域、住民が一体となった防災、減災対応ができる仕組みづくり
 - ② 防災関係機関の詳細な情報共有ができる仕組みづくり
 - ③ 自助、共助の連携が強い地域づくり
 - ④ 災害に即応できる地域防災計画の見直し
- など、このタイムラインをより有効なものにするには、1人でも多くの町民が理解、協働できる仕組みづくりが重要だと思います。
- 当町のタイムラインの策定には、多くの課題がありますが、「人の命が一番」を念頭に、町全体で減災行動ができる地域づくりに取り組みます。

いわた じょうじ
岩田 譲治